

指導教員：西田在賢

副査：渡邊貴之

医療経営人材養成を目的とした遠隔講義システムの構築と
有用性の実証研究

学籍番号 0614028

小倉 匠

平成22年1月12日

要旨

我が国の病院経営者は原則として医師でなければならないと法により規定されている。しかし、国民医療費は毎年1兆円規模で増加し平成19年度には約34兆円にもものぼっている。これは、経営学を学んだことのない医師には手に負えない規模の額である。そこで、日々多忙な医師が医療経営学を学ぶためにeラーニングの導入の必要性を下坪壮介の論文から調査した。そこから時間や場所の制約を受けることなく、且つ人的コミュニケーションがとれるような双方向の通信が可能なシステムを構築し、そのシステムが医療経営人材を養成する環境として有用かどうかを調査することを本研究の目的とすることにした。

eラーニングの方法として医療施設のPCでも利用でき、PCに詳しくない医療従事者であっても容易に使えることを想定し、Flashを利用した遠隔講義システムを開発することにした。構築するシステムでは人的コミュニケーションを重要視し、リアルタイムのストリーミング配信を行うことにした。リアルタイムストリーミング配信であればディスカッションや質疑応答が可能であるからである。また、FlashはPCに初めから入っているWebブラウザで再生できることから、場所の制約を緩和するために有効であると考えた。

自力で開発したシステムでは相互通信ができず、講義を受講することは可能だが、ディスカッションなどできないシステムであった。そこで、副査の渡邊貴之先生に改善をお願いし、改めてシステムの再構築を行った。新システムでは相互通信ができ、利便性なども大幅に向上していたため本研究で利用させていただくことにした。

構築したシステムの有用性と問題点を発見するために試験運用実験を行った。実際に講義を配信し、自宅にて数名に受講してもらった。この実験により、自宅で講義を受けるにあたり本研究のシステムが有用であることが明らかになった。

しかし、医療従事者を対象にした実験を行うことができず、医療経営人材育成に有用であるかどうか完全に実証するには至らなかった。また、インターネットを介しての講義配信では、画質・音質のトレードオフが付きまとうためバランスの取れた講義配信が極めて重要であることがわかった。これらに関する実証と解決を後々の課題とすることとした。